

菅生社協だより

2020年12月25日発行

第10号

〔発行〕菅生地区社会福祉協議会

□発行者 藤本幸子
□地区社協だより編集部

心のふれあいと連帯感を深めながら、 支え合う社会を目指して



マスク作りに励む

令和2年度はコロナウイルスが世界中に広がり岡山・倉敷にも発生し、まだ終幕は見えず、それどころか第3波に入り広がっています。あちこちでクラスターも発生し多数の感染、そして不幸にして亡くなられた方もいます。毎日が不安で体温・マスク・手洗い・うがい・アルコール消毒と個人で出来る事を各家庭で行っている事と思います。

菅生地区社会福祉協議会でも大きな事業では総会・体育祭・コミュニティまつり・カレーの会・独居の食事が残念ながら中止となりました。唯一郊外で出来る3世代ウォーキング。この時期の参加者を心配していましたが、思っていたより多くの方達、76名に参加して頂きホッとしました。コースは短距離で2.5kmでしたが、参加して下さった人達は「もう少し長い距離が良かった。」「楽しかった。」「来年も楽しみに又来ます。」と云って下さり、笑顔で帰られました。



新型コロナウイルスの中での活動



会長 藤本 幸子

短時間ではありましたが、楽しい1日を過ごして下さった事を嬉しく思いました。

80歳以上の声掛け・見守りでは小学校児童と幼稚園年長組に手紙を書いてもらい、マスク847枚と一緒に配布し、とても喜んで頂きました。地区社協の役員・民生・その他ボランティアの方達のおかげでした。

これからも社協では地域の人が住みやすく笑顔で暮らせる学区を目ざし、役員一同頑張つてまいりますので皆様のご協力を宜しくお願いします。

なお、「社協だより」作成に当たり、たくさんの方々に協力頂きましたことに深く感謝致します。

令和元年度 収支決算書

(収入)			(支出)		
科目	決算額	摘要	科目	決算額	摘要
助成金	479,000	倉敷市社会福祉協議会から	事務費	179,057	
内 一律助成金	80,000	市内全地区社協一律	印刷費	155,885	菅生社協だより、コピー等
内 運営助成金	155,000	前年度社協会費実績の20%	内 通信費	2,798	切手、はがき等
内 福祉活動助成金	94,000	前年度共同募金実績の10%	内 消耗品費	5,396	用紙、印刷インキ等
内 メニュー事業	150,000	1事業30,000円×5事業	内 会議費	14,978	総会、理事会、役員会等の茶菓代
活動費	60,000	学区コミュニティ協議会から	メニュー事業費	363,390	
寄付金	2,000		内 歳末たすけあい活動	65,744	カレーの会とお飾り作り 高齢者との食事会及び弁当配布
事業収入	0		内 福祉講演会の開催	37,942	福祉講演会の開催
雑収入	752	利息等	内 住民同士交流活動1	54,205	三世代ウォーキング、 ベタンク大会、川柳大会
繰越金	66,868		内 住民同士交流活動2	119,544	菅生学区体育祭、グラウンド・ゴルフ
計	608,620		内 要支援者訪問活動	85,955	高齢者への声掛け、見守りの訪問
			雑費	350	ボランティア保険等
			計	542,797	

収入 608,620 円 - 支出 542,797 円 = 65,823 円
次年度への繰越金とします。

菅生地区社会福祉協議会役員名簿

- 会長 藤本 幸子 愛育委員会会長
- 副会長 小山紀美子 元民生・児童委員協議会会長
- 〃 山内 宣夫 菅生地区保護司
- 〃 守屋 裕治 民生・児童委員協議会会長
- 〃 山縣 暁 青江宮前町内会長
- 〃 西村 良一 西岡会館長
- 庶務 貝原 速雄 元民生・児童委員協議会副会長
- 〃 村上 恵子 コミュニティ女性部すこやか部会長
- 理事 赤場 重美 青少年を育てる会支部長
- 〃 藤井 裕志 菅生学区老人連合会会長
- 〃 西田由美子 交通安全母の会会長
- 〃 津島 敏雄 交通安全対策協議会会長
- 〃 守屋 尚美 民生・児童委員協議会副会長
- 〃 間野 文章 北中学校PTA会長
- 〃 富森 賢一 菅生小学校PTA会長
- 〃 倉橋 志津 菅生幼稚園PTA会長
- 〃 森岡 輝行 浅原六組町内会長
- 〃 石原 仗一 下西坂公民館会長
- 監事 〃



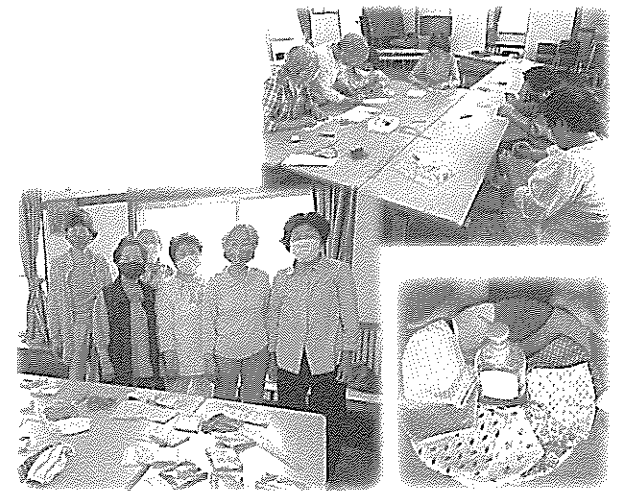
編集後記

地域の多くの方々のご意見・ご協力により運営されてきましたこの社会福祉協議会の活動は今年で、早くも10年を迎えました。

ここに「高齢者見守り活動」に寄せられた菅生幼稚園児の一通の手紙があります。おじいちゃん、おばあちゃんへようちえんにあそびにきてください。かぜひかないでね。わたしもかぜひかないようにするよ。

私たちはこの10年をひとつの節目として園児の心・初心に帰り、今後も活動して参りたいと思います。

最後に、長年にわたりこの活動にご尽力を頂きました貝原速雄氏の突然の訃報に接し、心より哀悼の誠を捧げます。



健康体操メンバーと地区社協役員が協力してマスク850枚を作りました。

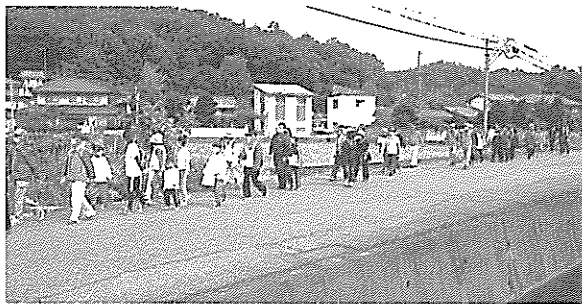
汗キラッ！ 絆を深めた 三世代ウォーキング

コロナ禍で様々な行事が中止になり寂しく感じていたが、愛育委員による毎年恒例の三世代いきいきウォーキング」は、予定通り開催されました。

当日は、前日の雨も上がり、爽やかな絶好のウォーキング日和となりました。その日は、我が家に瀬戸内市から娘と3人の孫が来ており、ちょうど三世代が揃っているではありませんか!! 「一緒に歩いて見ようか」と、事前の申し込みも必要ないという気軽さから、急遽、思い立ちました。家を出る前に検温し、マスクを着用して、5人で張り切って出かけました。

集合場所の生坂公園には、子供から高齢者まで幅広い世代の人達が集まっています。10時から、運動指導員の方による準備体操ストレッチで十分に体をほぐした後、ウォーキングコースがイラストで描かれた手作りのコースマップを受け取り、思い思いのペースでスタートしていききました。

運営に当たった愛育委員は、コロナの感染防止にも気を配り、「あまり密にならないように、間隔をあけて歩いてください」また、コース周辺の方々に迷惑をかけないようにするために「団地の中を通るときは、大きな声を出さないでください」などと声を掛けて、安全な運営ができるように、心を配って活動していました。また、健康観察をしながら一緒に歩いている保健師さんや愛育委員がいることで、参加者の皆さんは、安心してウォーキングを楽しむことができました。コースは適度にアップダウンがあり、30分歩くと、心地よい汗とともに、日頃のストレスも解消されてゴールすることができました。ゴール付近では、「今年は、短いコースを歩いたが、来年はロングコースに挑戦してみたい」という声も聞くことができ、充実の時間を過ご



菅生地区担当保健師 穂崎由佳

すことができましたことに感謝しながら帰路につきました。

菅生地区愛育委員会 副会長
藤井恭子・下川美智子

三世代ウォーキングでは、多くの方にご参加いただき、ありがとうございます。愛育委員の方の協力のもと、感染予防に気をつけながら実施することができました。楽しそうな雰囲気です。皆さん良い笑顔で歩かれていたのが印象的でした。参加されたことのない方は是非、今後の開催の際にはお越しください。菅生の自然豊かなウォーキングコースは、体も心も癒してくれます。

今年度は、新型コロナウイルスの影響で生活が大きく変わりました。多くの制限があるなかで、地域のつながりが大切だと感じ年でした。こんな時だからこそ、近所の方に「最近どう?」「元気にして?」「声をかけては?」と声をかけてはどうか。日頃のつながりは、菅生の宝になると思います。体調管理に気を付けて、2021年も元気でいきいき過ごしていきたいです。

マスク作りにかかわって

毎年、地区社協で取り組んでいる80歳以上の高齢者への声かけ、見守りなどの訪問活動を今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、手作りマスクをお届けすることになりました。マスク作りにあたり次の工程を経て出来上がります。

- ①型紙を決めること(立体マスクと鼻当てマスクの2種類)
- ②材料の調達(表布と裏布に使う晒し布・ゴム・ミシン糸など)
- ③布の断裁
- ④しつけ縫い・ミシン縫い
- ⑤アイロン仕上げ

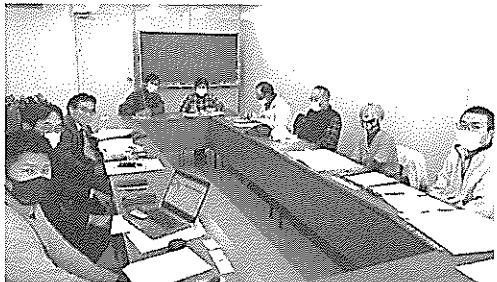
取りかかった頃は、マスクのゴムが手に入りにくく、遠方まで足を運んで揃えました。晒し布は、市の社会福祉協議会から援助して貰ったり、個人の方の御厚意により寄付して頂いたもので、おかげで個人の購入で済みました。表布は、あちこちのお店を廻って仕入れました。布の断裁は、型紙を布の上に置き、端布ができるだけ少ない様に型紙の置き方を考えて断りました。

ご自宅で製作する方もあり、布を広げる場所が必要なので、祐安公民館をお借りして殆ど毎週、数人の方々のお手伝いを頂き作業が進んでいきました。いざミシン縫いとすると数が多いので、納期のことでも考え何人かの知り合いの方々に依頼して助け頂きました。マスクの仕上げ(ゴム通し・メッセージの作成・袋入れ)は、役員全員の共同作業で頑張りました。



850枚という多くの数を達成することが出来たのも経験豊かな人が中心となり、また、地区の方々の御協力が得られたからこそ出来上がったものです。お忙しいなか、貴重な時間を使って、御協力して下さいました。この紙面をお借りして感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。地区社協 村上恵子

菅生地区小地域ケア会議 活動報告



菅生地区小地域ケア会議(ケア会議)では保健・福祉・介護等に関する地域の困りごと・気になることについて話し合い、様々な活動を行なっています。毎年恒例となっております。菅生学区川柳大賞もその活動の1つでしたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染状況も踏まえて中止とさせて頂いていただきました。それに伴いケア会議の活動計画も大きく変更することとなり、2ヶ月に1回開催している定例会も令和2年4月は中止しました。感染状況が落ち着いてきた6月からは感染対策を徹底して定例会を再開して話し合いを行いました。

今年度のケア会議ではコロナ禍のこの状況でも取り組むべき課題として「防災」については昨年度から議題の1つとして取り組んでいて、ケア会議委員の中では菅生学区内でも課題は多いとの共通認識を持っていました。ただ、実際に地域の方の思いや各町内会の皆様には快くアンケートに答えていただき貴重な資料となりました。災害発生時の対応について課題があるといった意見や、自主防災組織を立ち上げて体制を整えているとの意見があり各町内会でも防災への関心があることがわかりました。

その後、ケア会議の代表者が倉敷市総務局 防災危機管理室へお伺いして、菅生学区の現状をお伝えして今後の取り組みへのアドバイスをいただきました。いざという時には隣近所の助け合いが命を守ることに繋がるので、地域での防災活動を積極的に進めて欲しい。行政としても地域の活動を後押しできるように支援をして下さるとのことでした。今回いただいたアドバイスやアンケートの集計結果を各町内会へお渡しする予定です。ご協力いただいた皆様、ありがとうございます。倉敷北高齢者支援センター 篠山寛史

コロナ禍でも感謝 80歳以上の高齢者への 訪問活動を終えて



菅生地区では、地区社協のメニュー事業として、毎年秋に80歳以上の高齢者を訪問する活動を続けてきました。今年度も、新型コロナウイルス感染症の流行が懸念される中でしたが、このような時だからこそ、訪問者がマスクを着用し、密接を避けながら感染防止対策を十分に行い、各戸を訪問して、健やかに過ごされていることに敬意をお伝えするとともに、コロナウイルス・インフルエンザなどへの感染防止についても啓発することが必要であると考え、実施しました。今年度は、菅生地区内にお住まいの有志の方々の制作による「手作りマスク」、幼稚園児・小学生からの手紙、さらに民生委員会からは「除菌ウェットティッシュ」を準備し、民生委員、愛育委員などが協力し、高齢者のお宅へお届けしました。

お届けした高齢者の方からは、「毎年楽しみにしていた。今年はどうなるだろうかと心配していたが、心のこもった品をいただき、元気が出た。」「子供たちの温かい手紙にいつも感激している。」「という声を聞くことができました。また訪問した委員の方からも、「高齢者の方たちが、手作りマスクや除菌ティッシュなどを手に取って喜ばれている姿を見て、今回の行事を継続して良かった。」「という声がありました。これからも、地域の高齢者の皆様が、「菅生地区に住んでいてよかった。」「多くの人たちが私たちを見守ってくれているのだと感じている。」「と言ってくれたらいいように、今回のような地道な活動を継続していかねばならないと意を新たにしました。

菅生地区民生委員児童委員協議会 藤井恭子

私達くらしきほっとサポーターです

私達心ほっとサポーターは、精神障がいについての理解者を増やすため、行政と地域の架け橋となつて精神障がいや心の健康づくりについて市民のかたへ啓発しています。

倉敷地区では5つのエリアで活動しています。私達はマスクカットエリアで、庄・中庄・菅生の3つの学区が集合しています。それぞれの地区で地域の催しに参加したり、サロン活動、事業所など訪問させてもらったりしています。

菅生では、例年民主会館祭とコミュニケーションイマツリにおいて啓発したり、倉敷神経科病院のイベントに参加し当事者と交流させてもらったりしていました。しかし、今年はコロナのため活動が自粛された。秋になりやっと活動できるようになりました。10月の三世代ウォーキング、11月のグラウンドゴルフ交歓大会では、参加者のみなさんと一緒に楽しく活動し、チラシとティッシュを配らせていただき啓発しました。ありがとうございます。



心ほっとサポーターのメンバーは、小山紀美子、大村庸子、太田可菜子の3名です。お困りのことがありの方はどうぞお気軽に声をかけて下さい。心ほっとサポーター 太田可菜子